

職場における交通安全指導 Part.26

高齢者の特性と交通事故防止策

我が国は、世界有数の長寿国といわれ、急速に高齢化が進んでいます。

また、高齢化社会が進む中であって、年々高齢者が交通事故により死傷するケースが増えています。

今回は、高齢者(本文では65才以上とします。)をいたわり、事故を防止する運転について掲載しますので、社内の運転者教育にご活用ください。

高齢者の死者が4割 ~ 内半分が歩行中 ~

平成16年の交通事故統計における死者の年齢層別状況によると、最も多いのは「65才以上」のいわゆる高齢者で、全国死者数(7,358人)の41.4%(3,046人)を占めています。

また、状態別をそれぞれの年齢層でみた場合、高齢者においては、下表のように、歩行中・自転車乗中・原付乗中が各年齢層の中で最も多く、さらに高齢者の全死者数に対して、歩行中が48.9%・自転車乗中16.8%となっており、この2つで約66%を占めています。

年齢 / 状態	歩行中	自転車	原付	二輪車	その他	合計
~24	120	91	149	218	574	1,152
25~29	29	23	17	97	254	420
30~39	85	15	41	194	381	716
40~49	101	49	32	58	323	563
50~59	246	104	85	34	447	916
60~64	178	66	54	11	236	545
65~	1,491	511	262	61	721	3,046
合計	2,250	859	640	673	2,936	7,358

歩行中・自転車乗中の高齢者には十分な注意が必要です。高齢者は、基本的な安全の確認を怠りやすいとか、身体的機能の低下からくる車社会でのハンドを持っているので、ドライバーの方々は、この点を十分に理解して運転する必要があります。

高齢者の傾向

視力・聴力の衰え

- ・信号や横断歩道などが見えにくい。
- ・近づいてくる車に気づかない。
- ・クラクションに気づかない。

体力・感覚の衰え

- ・近づいてくる車に気づいても、素早くよけることができないで、のろのろと行動する。
- ・歩くのが遅く、信号が変わってもまだ横断途中の場合がある。
- ・歩道橋や遠くの横断歩道をおっくうがり、横断歩道外を横断することが多い。

判断力の衰え

- ・車の速度を見誤りやすく、無理な状態で車の前を横断する。
- ・交通ルールに弱く、標識等に疎い。

自己中心的・保守的

- ・車の方で停止してくれるだろうと考えがち。
- ・自分の思ったように行動しがち。
- ・若い頃の感覚が残っており、体力の衰えに気が付いていない。

高齢者との事故を防止するために

高齢者は歩くのが遅いので、横断途中の高齢者を見つけたら、渡りきるのを確認するまで注意する。

高齢者の横断歩道での事故は多い。自分の歩行速度を早めに考え、「信号が変わる前に渡りきれぬ」と思い横断し、渡り切れずに事故にあっています。ドライバーの方も、高齢者が道路を横断しているのを見かけたら「渡り切れるだろう」という甘い考えを捨てる必要があります。

横断歩道でない場所でも、横断しようとする高齢者を見かけたら、後続車の動きに注意し徐行や一時停止をして先に行かせる。ただし、その場合には、他の車両の動向にも十分な配慮が必要である。

高齢者は周囲の状況呼んで判断するのではなく、自分の思ったままに行動しがちです。車が近づいてきても、「車の方が止まってくれる」「車がくる前には渡りきれぬ」と考えて道路を横断しようとします。ドライバーは高齢者を見かけたら、「車が接近しているから横断はしないだろう」といった甘い考えはやめて、いつでも車を止められる構えをしておく必要があります。

高齢者は、交通ルールを無視して危険な行動をするかもしれないと考え、いつでも対処できるようにする。

高齢者は、交通ルールに対する理解不足から無謀な行動をとることがあります。例えば、信号が赤であっても横断しようとします。したがって、高齢者は交通ルールを守るものと期待しないで、無謀な行動をとるかもしれないと考え、いつでも対処できるように心掛けてください。

クラクションを鳴らしても聞こえない場合がある。クラクションを鳴らしたから大丈夫とは考えず、高齢者の動きに十分注意する。

クラクションを鳴らしたからといっても、耳の遠い高齢者には通じていない可能性もあります。そのような時に、強引に側方を通過しようとする、接近に気づかない高齢者が横断を始め、事故になる可能性があります。相手に通じているかどうかを確認できない場合は、安易にその側方を通過しないことです。

高齢ドライバーに対しては、車間距離を十分にとると共に、無理な割り込みを行ったり、クラクションやパッシングで先を急がせるような行為はしないこと。

高齢ドライバーは、無謀な運転をするということはありませんが、

- ・操作の機敏さや正確さに欠けやすい。
- ・車の速い流れにうまく乗れない。
- ・視力低下により夜間走行に問題がある。

などの傾向があります。無理な割り込みや先を急がせるような行為はしないことです。

以上、高齢者の傾向と事故防止策について述べてまいりましたが、ご理解いただけただしょうか。

体力や感覚機能等の衰えには個人差があり、すべての人がこのような傾向を持っているとはかぎりません。

高齢者の方々は、現代社会の発展の功労者です。尊敬の念と、いたわりの心をもって運転したいものです。

